

Google I/O 2026 深掘りレポート : Gemini

3.5、 Gemini Spark、 Gemini Omniの発表内容と発表後の評価

作成日: 2026年5月23日

作成者: Manus AI

エグゼクティブ・サマリー

2026年5月のGoogle I/Oは、単なる新モデル発表ではなく、Googleが検索、Workspace、Chrome、Android、YouTube、開発環境、Cloudを横断して、**Geminiを「会話するAI」から「実行するAI」へ移行させる転換点**として位置づけられる。Googleは基調講演の編集版で、AI Modeが月間10億ユーザーを超え、Geminiアプリが前年の4億MAUから9億MAU超へ拡大し、同社AIサーフェス全体の月間処理トークンが3.2 quadrillion超へ増えたと説明した。① この規模の上に、Gemini 3.5 Flash、Gemini Spark、Gemini Omni、Google Antigravity、AI Search、Managed Agents APIが接続され、Googleは「agentic Gemini era」を前面に出した。① ②

今回の中心は、**Gemini 3.5 Flash**である。Googleは同モデルを、Gemini 3.5シリーズの最初のリリースとして提供し、Geminiアプリ、AI Mode in Search、Google AI Studio、Android Studio、Google Antigravity、Gemini Enterprise、Gemini Enterprise Agent Platformで利用可能にした。② Googleの公表値では、Terminal-Bench 2.1で76.2%、MCP Atlasで83.6%、GDPval-AAで1656 Elo、CharXiv Reasoningで84.2%とされ、特に長期的なエージェントタスク、マルチモーダル理解、コーディング支援に重点が置かれている。② ③

ただし、発表後の評価は一枚岩ではない。Appwriteは、3.5 Flashが高い速度と実用的なエージェント性能を示す一方、GPT 5.5やClaude Opus 4.7には一部精度で劣り、Artificial Analysis上では評価コストが\$1,552に達したと分析した。④ The Decoderはさらに批判的で、Gemini 3.5 Flashは同クラス最速級である一方、エージェントタスクにおける多段推論と入力トークン消費がコストを押し上げ、Gemini 3 Flash比で5.5倍、Gemini 3.1 Pro比でも75%高い運用コストになると指摘した。⑤

Gemini Sparkは、Googleの既存資産が最も活きる発表である。SparkはGemini 3.5とAntigravity harnessを使い、Google Cloud上で24時間動作する個人AIエージェントとして設計され、Gmail、Docs、SlidesなどWorkspaceアプリを横断してタスクを実行する。⑥ TechCrunchは、個人エージェント競争におけるGoogleの優位を「すでにメールを持っている」ことにあると表現し、SparkはGoogleプロダクト群との統合によって設定摩擦を下げると評価した。⑦ 一方、CNETは、Gmail、Calendar、Drive、Docs、Sheets、Mapsなど広範なデータ接続を前提にするSparkは、利便性と引き換えにユーザーデータへのアクセスが大きすぎると批判した。⑧

Gemini Omniは、動画生成を起点に「任意の入力から任意の出力へ」という方向性を示したメディア生成モデルである。Googleは、Omniがテキスト、画像、動画、音声入力を統合し、自然言語で動画を編集でき、物理、重力、運動エネルギー、流体などの直感的理解を改善したと説明する。⁹ Gemini Omni FlashはGeminiアプリ、Google Flow、YouTube Shorts、YouTube Createで順次提供され、生成物にはSynthID透かしが入る。⁹ ただし、WIREDの実使用記事は、AIアバターが「不気味なほど自分らしい」体験を生むと評し、非同意ディープフェイクや人格複製の倫理リスクを強調した。¹⁰

総合すると、Google I/O 2026の評判は、「GoogleがAI競争で追随者ではなく、統合プラットフォームの主導権を取り戻しつつある」という肯定評価と、「高コスト化、プライバシー、エージェントの信頼性、生成動画の倫理リスクが未解決」という慎重・批判評価に分かれる。Bank of AmericaはGoogleが「もはや追いつく側ではない」と前向きに捉えた一方、UBSはAI Ultraプランなどの短期収益インパクトは限定的で、競争と高い期待値を理由に中立姿勢を維持した。¹¹

1. Google I/O 2026の全体像：AI機能の羅列ではなく、エージェント・スタックの提示

Google I/O 2026の最大の特徴は、発表された製品が個別に完結していない点にある。Gemini 3.5 Flashはモデル、Google Antigravityはエージェント実行・開発基盤、Gemini Sparkは個人利用面、AI Searchは検索面、Managed Agents APIは開発者・企業面、Gemini Omniは創作面を担う。Ken Huangはこの構図を、Geminiをチャットボット群から**distributed agent runtime**へ変える試みだと分析している。¹²

“The useful read is simpler and more technical: Google is trying to turn Gemini from a chatbot family into a distributed agent runtime.” — Ken Huang, *Google I/O 2026 Was Not Just a Model Launch*.¹²

Google自身も、開発者向け基調講演のまとめで、AIが単に支援する段階から、ワークフロー全体にまたがる複雑なタスクを自律的に進めるエージェントへ移行していると説明した。¹³ つまり、Googleの狙いは、単にChatGPTやClaudeに対抗するモデルを出すことではなく、Googleアカウント、Workspace、Search、Chrome、Android、Cloud、YouTubeを束ねた**タスク中心の実行レイヤー**を作ることにある。

| 領域 | 発表内容 | Googleの狙い | 評価上の論点 |
|----------|----------------------------|-----------------------------|---------------------|
| 基盤モデル | Gemini 3.5 Flash、3.5 Pro予告 | エージェント・コーディング・マルチモーダルの高速実行 | 速度は高評価、総コストと一部精度に疑問 |
| 個人エージェント | Gemini Spark | WorkspaceやChromeを横断する24/7実行 | データアクセス、誤動作、承認設計が焦点 |

| | | | |
|--------|--|--------------------------------|-----------------------------|
| メディア生成 | Gemini Omni / Omni Flash | 動画を起点にany input to any outputへ | 創作力は高評価、アバター・ディープフェイク懸念 |
| 開発基盤 | Antigravity 2.0、CLI、SDK、Managed Agents | エージェントを実行・監督・検証する基盤化 | IDE補助からワークorchestrationへの移行 |
| 検索 | AI Mode、情報エージェント、生成UI、ミニアプリ | 検索を回答・監視・実行・UI生成の場に拡張 | 出版社トラフィック、広告、検索の信頼性が論点 |
| コマース | Universal Cart、Agent Payments Protocol | AIエージェントによる購買・決済の導線作り | 決済承認、支出上限、消費者保護が論点 |

The Vergeも、Google I/O 2026の基調講演をAI関連発表が中心だったと整理し、Gemini 3.5、Gemini Omni、Gemini Spark、AI Search、Universal Cart、Google Pics、AI検出ツールなどを主要トピックとして挙げた。¹⁴

2. Gemini 3.5 Flash: 高速な「エージェント実行モデル」だが、安価とは言い切れない

GoogleはGemini 3.5 Flashを、Gemini 3.5シリーズの最初のモデルとして発表した。Gemini 3.5 Proは内部テスト中で、翌月提供予定とされた。² 3.5 FlashはGeminiアプリとAI Mode in Searchの新しいデフォルトモデルになり、Google AI Studio、Android Studio、Antigravity、Gemini Enterprise、Gemini APIでも利用できる。²

Googleの説明では、3.5 Flashは「frontier intelligence with action」を目指し、長期的なエージェントワークフロー、コーディング、マルチモーダル理解を重視している。² Google Cloud ブログでは、企業向けにはGemini Enterprise Agent PlatformやWorkspaceと結びつき、金融文書、コードベース保守、アプリ開発、マルチステップ業務の自動化に使えると説明された。³

| 指標・仕様 | Googleまたは第三者が報じた内容 | 解釈 |
|--------------------|--------------------|--------------------------------|
| Terminal-Bench 2.1 | 76.2% | ターミナル操作・開発タスクでGoogleが強みを主張する根拠 |
| MCP Atlas | 83.6% | MCP連携型の多段ツール利用に強いという主張 |
| GDPval-AA | 1656 Elo | 実世界的なエージェントタスクの評価値 |
| CharXiv Reasoning | 84.2% | 図表・マルチモーダル推論の強み |

| | | |
|--|--|--|
| Artificial Analysis Intelligence Index | 55.3、147モデル中7位と Appwriteが報告 | 上位だがGPT 5.5やClaude Opus 4.7には届かない場面もある |
| 出力速度 | 約278 output tokens/sと Appwrite、280超とThe Decoderが報告 | 同知能帯では際立つ強み |
| API価格 | 入力\$1.50/M、出力\$9.00/M、キャッシュ入力\$0.15/M | Gemini 3 Flashより高く、Gemini 3.1 Proより単価は安い |
| 評価コスト | Artificial AnalysisのIntelligence Indexで\$1,552とAppwriteが報告 | エージェント的な長大推論では単価以上に総トークン消費が重要 |

発表直後の肯定評価は、主に**速度と実用的エージェント性能**に集中している。Appwriteは、自社のAppwrite Arenaで3.5 FlashがSkillsありで96.2点、20分、Skillsなしで90.7点、13分を記録し、90点以上のトップ層の中では最速と評価した。⁴ この結果は、モデル単体の抽象ベンチマークだけでなく、SDKやAPIの正確な利用、ドキュメントコンテキストの活用といった開発者実務で強みを持つ可能性を示す。

一方で、否定的または慎重な評価は、「Flash」という名称から想起される**低コスト性が薄れている点**に集中する。The Decoderは、Gemini 3.5 Flashのトークン単価がGemini 3 Flashの3倍になり、さらにエージェントタスクで多くのターンと入力トークンを消費するため、Artificial Analysisの試験では総コストがGemini 3 Flash比5.5倍、Gemini 3.1 Pro比75%高いと指摘した。⁵ これは、企業がAI導入を評価する際に、単純な入力・出力単価ではなく、**1タスク完了あたりの総コスト、再試行、検証、人間レビュー**を含めて比較する必要があることを示している。

また、The Decoderはコーディング分野を弱点として挙げた。Googleの公式表ではTerminal-Bench 2.1などで優位を示すが、Artificial Analysis Coding IndexではGemini 3.1 Pro、GPT-5.5、Claude Opus 4.7に劣るとされる。⁵ そのため、Gemini 3.5 Flashは「最も賢いモデル」ではなく、**速く、Google製のエージェント基盤やマルチモーダル入力と組み合わせると価値が高いモデル**と見るのが妥当である。

3. Gemini Spark: Googleの最大の強みと最大の不安が同居する24/7個人エージェント

Gemini Sparkは、Google I/O 2026で最も社会的インパクトが大きい発表の一つである。GoogleはSparkを、Gemini 3.5とAntigravity harnessを使って、ユーザーの指示の下で24時間動作する個人AIエージェントと説明した。⁶ SparkはGoogle Cloud上で動作するため、ユーザーがノートPCを閉じたりスマートフォンをロックしたりしても背景でタスクを継続できる。⁶

Googleが示した典型例は、月次クレジットカード明細から新しいサブスクリプション料金を検出する、子どもの学校メールから重要期限を抽出して家族向けダイジェストを作る、会議メモやメール、チャットを統合してGoogle Docs文書とプロジェクト開始メールを作る、といったものである。⑥ これらは、従来のチャットボットが苦手とした、**複数アプリ横断、長期監視、定期実行、文脈保持、承認付きアクション**を必要とする。

| 観点 | 肯定的評価 | 懸念・批判 |
|----------|---|---------------------------------|
| Google統合 | Gmail、Docs、Sheets、Slides、Calendar、Chromeとの統合で設定摩擦が小さい | Googleへの依存とロックインが強まる |
| 常時稼働 | PCやスマホを閉じてもGoogle Cloud上で作業が続く | 背景で何を読んでいるか、何を保存しているかが不透明になりやすい |
| 外部連携 | MCPでCanva、OpenTable、Instacartなどと接続予定 | 外部サービス接続でデータ流通範囲が拡大する |
| 承認設計 | 送信、支払いなど高リスク行為では確認を求める設計 | 誤解釈、過剰実行、ユーザーの承認疲れが課題 |
| 競争力 | OpenAI、Anthropic、Microsoftに対しWorkspaceデータ統合で優位 | プライバシー懸念が普及のボトルネックになり得る |

TechCrunchは、Googleが個人AIエージェント競争で持つ過小評価された優位として、すでにユーザーのメールを持っていることを挙げた。⑦ この表現は皮肉にも見えるが、本質を突いている。Sparkの価値は、モデルの純粋性能よりも、GmailやWorkspaceの文脈にすぐアクセスできること、ユーザーが普段使うGoogle製品内でエージェントを使えることにある。

VentureBeatも、SparkをGoogleがAIアシスタントを「回答する道具」から「タスクを完了する主体」へ変える試みと評価し、Google Cloud上の常時稼働、Gemini 3.5 Flash、Antigravity harness、MCP連携、Chrome連携、将来のAgent Payments Protocolを含む大きなアーキテクチャとして捉えた。⑮

しかし、Sparkは同時に、GoogleのAI戦略の最もセンシティブな部分でもある。CNETは、SparkがGmail、Calendar、Drive、Docs、Sheets、Mapsなどにアクセスし得ることを問題視し、Googleは接続がデフォルトオフで、メールを無差別に読むわけではないと説明しているものの、どの情報が保存・共有されるのかは不明だと批判した。⑧

“The new AI agent sounds like a dream if you're busy or overwhelmed by the thought of umpteen tasks on your to-do list. But ask yourself if you're really OK with Google having access to all that information.” — CNET, *Gemini Spark Gives Google Way Too Much Access to Your Data*. ⑧

この批判は、単なるプライバシー不安ではない。Sparkは「行動するAI」であるため、誤ってメールを下書きする、誤った相手に情報をまとめる、支払い・配送・予約の文脈で住所や決済情報を扱う、第三者の個人情報を含むデータを処理する、といった現実的リスクを伴う。Googleは高リスク行為で承認を求める設計を掲げているが、実際の利用では、承認画面が頻発するほど利便性が下がり、承認を簡略化するほどリスクが上がる。このトレードオフが、Sparkの普及を左右する。

4. Gemini Omni: 動画生成の統合モデル化と、アバター倫理の前面化

Gemini Omniは、Googleのメディア生成戦略における新しい柱である。GoogleはOmniを、Geminiの推論力と生成メディアモデルを組み合わせ、画像、音声、動画、テキスト入力から高品質な動画を生成・編集するモデルと説明した。⁹ 最初のモデルであるGemini Omni Flashは、Geminiアプリ、Google Flow、YouTube Shorts、YouTube Createで提供され、開発者と企業向けAPIも数週間以内に提供予定とされた。³ ⁹

Gemini Omniの差別化点は、従来のテキストから動画を作るモデルではなく、**入力参照を統合して、会話的に動画を編集するモデル**として打ち出されたことにある。Googleは、動画内の背景変更、特定物体の変換、カメラ角度変更、スタイル転換、音声やビートに同期した演出、複数ターンにわたる編集を例示した。⁹ The Vergeも、Veoが主にtext-to-videoであったのに対し、Omni Flashはテキスト、写真、動画、音声を含む複数入力から動画を作れる点を違いとして報じた。¹⁴

| Gemini Omniの機能領域 | 具体例 | 期待される用途 | 主なリスク |
|------------------|---------------------------------|-----------------------|---------------------|
| 会話的動画編集 | 背景変更、ズーム、特定物体の変更 | クリエイター、広告、教育、SNS動画 | 既存映像の改変・誤認 |
| 物理・世界理解 | 重力、流体、運動エネルギーの表現 | 実験説明、製品デモ、教育コンテンツ | 物理的に見えるが誤った説明映像 |
| 複数入力参照 | 画像、動画、音声、テキストを統合 | ブランド素材、キャラクター一貫性、編集効率 | 著作物・肖像・音声の権利問題 |
| AIアバター | 自分の見た目と声を使った動画 | プレゼン、講義、個人発信 | 非同意ディープフェイク、なりすまし |
| 透かし・検証 | SynthID、Gemini/Chrome/Searchで検証 | 出所確認、プラットフォーム統治 | 透かし回避、検証普及率、法制度との整合 |

Omniの評判は、創作ツールとしては非常に強い期待を集めている。MacRumorsは、Google Flow、Geminiアプリ、YouTube Shortsへの導入によって、ユーザーが動画環境の変換、視覚効果の追加、新キャラクターの導入、オリジナルの一貫性維持などを容易に行えると整理した。¹⁶ Google自身も、全てのOmni生成動画にSynthID透かしを埋め込み、Geminiアプリ、Gemini in Chrome、Google Searchで検証可能にすると説明している。⁹

一方で、OmniはGoogle I/O 2026の中でも、倫理面の反応が最も鋭い領域である。WIREDは、GeminiのAIアバター機能を使って自分のデジタルクローンを作成した体験を報じ、生成された自分の映像が「より完璧で、いつでもどこでも自分になれる存在」のように感じられ、不気味さを伴ったと記した。¹⁰ Googleは害の防止と無害な利用を過剰にブロックしないバランスを取ると説明しているが、WIREDは非同意ディープフェイク、とりわけ女性を標的にした悪用が増えていることを指摘した。¹⁰

Gemini Omniは、AI生成動画を専門家向けツールから日常的な創作インフラへ近づける可能性がある。しかし、それは同時に、「**動画は証拠である**」という**社会的前提をさらに弱める**。SynthIDやC2PA Content Credentialsのような検証技術は重要だが、ユーザーが検証する習慣を持たなければ機能しない。Omniの成否は、生成品質だけでなく、透かし、本人確認、肖像権管理、削除申請、プラットフォーム横断の検証UIがどこまで実装されるかに左右される。

5. AI SearchとAntigravity: 検索窓がエージェント実行面になる

Google I/O 2026では、Searchも大きく変わった。GoogleはAI Modeが月間10億ユーザーを超え、Gemini 3.5 FlashをAI Modeの新しいデフォルトモデルにすると発表した。¹⁷ また、検索ボックスはテキストだけでなく画像、ファイル、動画、Chromeタブを入力として扱い、AIによる質問補助を備える方向へ拡張された。¹⁷

さらに重要なのは、Search agents、生成UI、ミニアプリである。Googleは、情報エージェントが24時間ウェブ、ブログ、ニュース、SNS、金融、ショッピング、スポーツなどの最新データを監視し、ユーザーの具体的な関心に応じて更新を送ると説明した。¹⁷ また、SearchがAntigravityとGemini 3.5 Flashを使って、質問に応じたインタラクティブな表、グラフ、シミュレーション、ダッシュボード、トラッカー、ミニアプリをその場で生成するという構想も示した。¹⁷

これは、検索体験の変化にとどまらない。従来、検索はユーザーを外部ページへ送る導線だったが、AI Searchは回答、追跡、UI生成、タスク管理を検索面に取り込む。TechCrunchの記事リストにも「Google Search as you know it is over」という表現が見られ、検索が単なるリンクリストではなくなったという認識が広がっている。⁷

この変化は、ユーザーにとっては便利である一方、メディア、SEO、広告、EC、アプリ配布に大きな影響を与える。検索結果ページ上でAIが回答やミニアプリを提供すれば、外部サイトへのクリックは減る可能性がある。Googleは引き続きリンクを提供すると説明しているが、AI

OverviewやAI Modeの強化は、ウェブ出版者やサービス提供者にとって、Googleの中で消費される情報と外に送られるトラフィックの配分をめぐる新しい緊張を生む。

6. 開発者向け発表：Antigravity 2.0、Managed Agents、AI Studio、Android/Webエージェント

開発者向けには、Google Antigravity 2.0、Antigravity CLI、Antigravity SDK、Managed Agents、AI Studio統合、Android CLIとAndroid Bench、WebMCP、Chrome DevTools for agentsなどが発表された。¹³ これらは、Gemini 3.5 Flashを単なるAPIモデルとして使うのではなく、**エージェントが計画し、実行し、検証し、成果物を提示する環境**をGoogleが提供するという方針を示している。

Google Developers Blogは、Antigravity 2.0とCLIで専門サブエージェントを立ち上げ、複雑なワークフローを処理でき、クロスプラットフォームのターミナルサンドボックス、認証情報マスキング、強化されたGitポリシーで保護されると説明した。¹³ Managed Agents in the Gemini APIでは、単一APIコールでリモートサンドボックス付きのエージェントを提供するという。¹³

開発者視点での評価は、おおむね肯定的だが、実運用では検証プロトコルが重要になる。Ken Huangは、Antigravityを「AI code completion」ではなく、タスク計画、実行、検証、証拠提示を行う**work orchestration layer**として読むべきだと分析した。¹² これは、ログではなくスクリーンショット、ブラウザ録画、実装計画、タスクリストを通じて、人間がエージェントの作業を検証する設計が重要であるという見方である。

7. 市場・投資家の反応：AI競争での再評価と、収益化への慎重論

投資家・アナリストの反応は、製品面では前向きだが、短期収益化については慎重である。Proactive Investorsによると、Bank of Americaは、Googleがfrontier AI、Search、AI agents、smart glassesにまたがる幅広いAI製品更新を示したと評価し、AI Overviews、AI Mode、Geminiの利用拡大により検索ユーザーをAIユーザーへ移行させていると見た。¹¹

同記事は、Bank of Americaが「Google no longer playing catch up」と表現し、Searchとエージェント発表が先導的な製品イノベーションを示したとしてBuy寄りの見方を示したと報じている。¹¹ これは、2023年から2025年にかけてGoogleがOpenAIやMicrosoftに後れを取ったという市場認識からの反転を意味する。

一方、UBSはより慎重である。AI monetizationはSearchとCloud以外ではまだ初期段階であり、AI Ultraの\$100/\$200プランは短期予想を大きく変えるほどではないとした。¹¹ ただし、Google Search/Geminiがより多くのユーザーデータへアクセスすることで広告パーソナライゼーションを高める可能性を認め、GoogleはOpenAIやMetaとの競争で取り残されにくいと評価した。¹¹

| 評価主体 | ポジティブ評価 | 慎重・否定的評価 |
|-----------------|--|---|
| Bank of America | GoogleはAI競争で追いつく側ではなくなった。Search、Gemini、agents、smart glassesで製品モメンタムがある | 明示的な短期収益懸念は相対的に小さい |
| UBS | 長期的にはユーザーデータと広告パーソナライゼーション、AI製品拡大が収益機会 | AI monetizationはSearch/Cloud以外で初期段階。期待値と競争が高い |
| 開発者系レビュー | 3.5 Flashは高速でエージェント用途に有望。Appwrite Arenaで上位かつ高速 | 総コスト、知識カットオフ、コーディング精度、トークン消費が課題 |
| 消費者メディア | Sparkは多忙なユーザーに便利。Omniは創作を民主化 | Sparkのデータアクセス、Omniのディープフェイク・人格複製が不安 |

8. 総合評価：Google I/O 2026は「勝利宣言」ではなく「統合力の証明」

発表後数日間の評価を総合すると、Google I/O 2026は、GoogleがAI競争で再び存在感を強めたイベントとして受け止められている。Gemini 3.5 Flashは、単体で全競合を圧倒するモデルというより、GoogleのSearch、Workspace、Antigravity、Cloud、Android、Chromeに組み込まれたときに価値が出るモデルである。Sparkは、Googleのデータ統合力を最大限に活かす個人エージェントであり、同時にプライバシー・承認・責任の問題を最も強く露呈する。Omniは、動画生成と編集を大きく前進させる一方、アバターとディープフェイクの倫理問題を避けて通れない。

今回の発表の真価は、半年から一年後に、次の三点で判断されるべきである。第一に、Gemini 3.5 Flashと3.5 Proが、実タスク完了率、エラー率、1タスクコストでGPT、Claude、OpenAI agent、Microsoft Copilot、Anthropic Claude Coworkに対抗できるかである。第二に、Gemini Sparkが、ユーザーの信頼を損なわずにGmailやWorkspaceの深い文脈を活用できるかである。第三に、Gemini Omniが、創作の利便性と本人確認・透かし・ディープフェイク対策を両立できるかである。

したがって、現時点での結論は次のようになる。Google I/O 2026は、**GoogleがAIモデル企業ではなく、AI実行インフラ企業としての強みを示したイベント**である。評判は概ね前向きだが、それは「Googleがついに追いついた」からではなく、「Googleが自社の巨大な配布面、データ面、開発面、検索面を一つのエージェント・スタックとして束ね始めた」からである。一方で、その強みはそのまま、ユーザーの個人情報、決済、創作物、検索トラフィックをGoogle

がどこまで制御するのかという社会的懸念に転化する。Google I/O 2026の本当の争点は、モデル性能ではなく、**エージェントを日常生活と業務のどこまで委ねられるか**である。

References

- [1] Google Blog, I/O 2026: Welcome to the agentic Gemini era
- [2] Google Blog, Gemini 3.5: frontier intelligence with action
- [3] Google Cloud Blog, Everything Google Cloud customers need to know coming out of Google I/O
- [4] Appwrite, Gemini 3.5 Flash: a detailed benchmark and capability review
- [5] The Decoder, Google's Gemini 3.5 Flash follows Anthropic and OpenAI in making newer AI models significantly pricier
- [6] Google Blog, The Gemini app becomes more agentic, delivering proactive, 24/7 help
- [7] TechCrunch, Google introduces Gemini Spark, a 24/7 agentic assistant with Gmail integration, at IO 2026
- [8] CNET, Gemini Spark Gives Google Way Too Much Access to Your Data
- [9] Google Blog, Introducing Gemini Omni
- [10] WIRED, I Cloned Myself With Gemini's AI Avatar Tool. The Result Was Unnervingly Me
- [11] Proactive Investors, Alphabet showcases new AI models and agent tools at Google I/O 2026
- [12] Ken Huang, Google I/O 2026 Was Not Just a Model Launch. It Was Google Showing the Agent Stack
- [13] Google Developers Blog, All the news from the Google I/O 2026 Developer keynote
- [14] The Verge, The 13 biggest announcements at Google I/O 2026
- [15] VentureBeat, Google's new AI agent can draft your emails, monitor your inbox and eventually spend your money
- [16] MacRumors, Google I/O 2026 Roundup: Gemini 3.5, AI Search, Android XR Glasses, and More
- [17] Google Blog, A new era for AI Search